

平成 25 年度 宇治市観光振興計画推進委員会

会議要点録

日時：平成 25 年 12 月 2 日（月）午後 3 時～

場所：宇治市役所 8 階 大会議室

次 第

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 開会あいさつ
4. 委員会の設置
5. 委員長互選及び副委員長指名
6. 委員長あいさつ
7. 委員会の公開
8. 観光振興計画進捗状況等報告
 - ・ 宇治市観光振興計画アクションプランの進捗状況報告
 - ・ 各団体等の取り組み、提案
9. その他
10. 閉会

< 出席委員 >

森 正美	京都文教大学教授
神居 文彰	平等院住職
北村 善宣	社団法人 宇治市観光協会副会長
古賀 則行	平等院表参道商店会会長
佐脇 至	宇治橋通商店街振興組合理事長
通円 亮太郎	宇治源氏タウン銘店会会長
保科 秀行	公益社団法人 京都府観光連盟専務理事
山本 哲治	宇治商工会議所会頭
辻 俊宏	宇治茶商工業協会会長
辻 四一郎	宇治市茶生産組合組合長
林 啓志	京都府山城広域振興局農林商工部長

事務局：宇治市産業政策室商工観光課

敬称略

《資料 宇治市観光振興計画推進委員会名簿》順

< 要点録 >

【1.開会】

事務局より開会と資料の確認

【2.委員の委嘱】

山本市長から委嘱状交付。

【3.開会あいさつ】

山本市長から開会のあいさつ。

(その後山本市長は他の公務のため退席)

【4.委員会の設置】

事務局より《資料1 宇治市観光振興計画推進委員会設置要項》の説明。

【5.委員長互選及び副委員長指名】

事務局より委員長の互選及び副委員長の指名について説明。

山本委員より森委員を委員長にとの推薦があり、満場一致で森委員を委員長に決定。

森委員長より北村委員を副委員長にとの指名により北村委員を副委員長に決定。

【6.委員長あいさつ】

森委員長によるあいさつ。

【7.委員会の公開】

会議の公開を決定。傍聴者の入室。

【8.観光振興計画進捗状況等報告】【9.その他】

事務局より宇治市観光振興計画アクションプランについての進捗状況を資料に基づき説明。その後各アクションプランについて意見交換。以下、委員ごとの発言要約。

【神居委員】

アクションプラン『5-2- 京都・伏見と連携したプロモーションの実施』に関連して、来年には「南山城」をテーマに京都博物館の展覧会や朝日新聞の特集が予定されているが、宇治市として京都府南部（京田辺、八幡、南山城）とどのように連携してプロモーションに取り組むか。宇治市が南山城地域の観光の窓口となって観光連携することにより大きく発展していく可能性があると考えている。

【事務局】

山城観光については京都府を中心として推進しているところである。

【林委員】

京都府としては、宇治市に訪れている観光客が南部にも訪れていただくよう、山城地域全体でバランス良く取り組むことが重要と考えている。特にその取組みの中心となるのは宇治茶であると考えており、山城地域ではいろいろなお茶の種類が楽しめる。それらは静岡など他地域にない強みだと考えている。

【森委員長】

京都府が全体のバランスを配慮されることをわかった上で、宇治市の観光振興をどうしていくのかを考えることが重要。京都府の取組みやお茶のプロモーションについても、宇治市が果たすべき役割やアプローチの方法について考える必要がある。

【保科委員】

京都府観光連盟としても宇治市を単独で紹介することは難しいので、京都駅を中心として一足延ばしてもらってPRを京都府全体として行っている。

今年度から京都府北部地域で取り組まれている海の京都事業は、観光庁の観光圏事業を7つの市町が連携して利用されている。この事業において指摘されている地域の課題は、単に施設を見せるのではなくて歴史・伝説・神話を含めた魅力あるくらしを見せるような地域資源の掘り起こしが必要とされている。それによって点が面となり、観光客が何度も訪れるキッカケとなると考えている。

【辻四一郎委員】

宇治茶の生産者として観光振興に寄与できる部分は、全国の茶品評会や関西の茶品評会などで賞をとるための努力をし「宇治茶＝高級茶」という名声を保つことだと考えている。

もう一つは、歴史的な茶園の風景を残していくことであると考えているが、市内産の宇治茶の消費量は増えておらず販売価格も下がっており、茶園面積は年々減り危機的な状況になりつつある。生産者は宇治茶で儲かっているだろうと思われがちだが、実際はおいしいところはよそに持っていける厳しい状況であり、後継者が育たない。

茶園がなくならないように宇治茶ブランドを守るため、宇治茶青年対策部会などを立ち上げて頑張っているところである。

この間宇治市で開催された全国茶品評会において市役所のロビーで市内産のお茶の無料接待を行ったが、大変好評であったし、まず飲んでいただくことがもっと必要だと感じた。市内産の宇治茶をPRする観光事業に対しては全面的に協力していきたい。

【辻俊宏委員】

茶商ではきき茶めぐりなどの事業を行っており、それらの事業を繰り返して実施することで京都府内・全国に宇治茶を広めていきたいと考えている。

宇治茶に染まっていたかひとつの案として、宇治に来られた方や宿泊施設利用者にウエルカムティーを振る舞い、ほんまものの玉露や抹茶を出してはどうか。とにかく実際に飲んでいただくことが大切だと感じているし消費拡大につながると考える。

【山本委員】

若い年代の宿泊客の中には、急須でお茶を入れる習慣がなかったり、お茶の淹れ方を知らない人が非常に多く、茶殻を捨てるところも知らずに困っておられることもある。

それでも、お客さんからの問い合わせで「どこのお茶の葉を使っているか。どこで買えますか」と聞かれることがあり、いかに若い方に知ってもらい消費につなげていくかを考えることが大事。

【森委員長】

宿泊の際に客間に「お茶の入れ方のしおり」が置いてあれば、観光客は喜んでそれを見ながら自身で体験されると思うし、目の前で淹れて差し上げることができればより観光客の満足度も高まるのではないかと。

【山本委員】

市の太閤堤の事業について、現在はどのような状況か。

【事務局】

太閤堤の事業は歴史まちづくり推進課が担当しており、発掘した遺跡を再現すること、茶畑を整備して一部分には観光客にも入っていただけるような素案が現在提案されている。完成は平成30年度を予定しているため、前期アクションプランの期間内には完成しないが、ある程度形が決まれば、委員にも情報提供していく。

【山本委員】

紅葉の状況は京都府の中でも地域によって差があるため、もう少し京なびで紅葉の情報を流してほしい。

【保科委員】

知らせ方に工夫はあるかもしれないが、京なびでは紅葉情報を毎週月曜日と木曜日に調べて掲示板で発信するとともに旅行会社など80ヶ所に情報を流しています。

【通園委員】

対鳳庵で提供しているお茶について、本当にいいおもてなしをするためには価格もサービスももう少し高めるべきだと考えている。

急須でお茶を入れる習慣がないことについて、宇治市内の小学校に入学する時に急須を児童に配って、小学校のときに先生が入れ方を教えてあげる取り組みがあったら良いと考える。

また、宇治市内の学校では「蛇口をひねるとお茶が出る」というのが有名ですが、お茶の質に

ついてもう少し考えていただきたい。

全国茶まつりでのきき茶めぐりは、リピーターの方も多く来られており大好評であったのもっと参加店舗を増やすなど取り組みを広げていくべきと考える。

毎年行われる年賀交換会について、こぶ茶で乾杯されていますが、できたら玉露、それも冷水でお茶をいれて乾杯していただきたい。

【佐脇委員】

今年行われた京阪 100 周年イベントで宇治茶を振舞ったが、観光客の反応は非常に良く、宇治に来ればおいしいお茶が飲めるという告知を前面に出していくべきだと思う。

昔、自動茶香炉を宇治橋通り商店街の 20 店舗くらいに設置したことがあり、現在は 1 店舗だけとなっているが、お茶屋さん以外のお店でもお茶の香りしてすごく好評で良いことなので今後に向けて検討していきたい。

宇治橋通り商店街は地元の買い物客がメインだが、JR 宇治駅から平等院への導線上に位置しており、観光客も切り離せないと考えている。

駅前のアーチが老朽化していて景観にそぐわないものとなっているので、宇治市と今後の対応について相談したいと考えている。

【古賀委員】

平等院表参道商店会では平等院と共催して、現在平等院作品公募展の募集を行っており、平成 26 年 1 月 18 日～2 月 16 日まで開催する。展示については、他の商店街や源氏物語ミュージアムに協力いただき街中に展示していく予定。また、ゲスト枠として俳優の榎木孝明さんの作品や、手塚プロダクションに映画「ブッタ」と火の鳥の複製原画を依頼して展示することも進めている。

商店街の会員の声として、今年はスタンプラリーやイベントが重なりすぎて、イベントごとの特典・サービスがわからなくなるとの声が多くあった。閑散期ほど、イベントを実施していただきたい。

また、商店街が取り組むイベントにおいて、不参加の店舗があるとお客様利便を損なう可能性があるため、できる限り参加を促すように努力していきたい。

【森委員長】

イベントのスケジュールを調整する事務連絡会のようなものが必要である。

【神居委員】

平等院作品公募展は、文化庁が地域と文化が一体化することを目的として新しく設けた補助事業を活用している。

平等院鳳凰堂は来年 4 月に一定の工事を終えて公開を予定している。4 月 2 日には藤原頼道公の 940 回忌にあわせて鳳凰堂で大きなイベントと鳳凰堂内部拝観の再開を考えており、2 月にはチラシを作成し配布する予定で、その後は 10 月の落慶を目指して修理を進める。今までの鳳凰堂とはまったく違う姿になるということでメディア等の露出も増え、宇治の観光集客に大きく良い

影響を与えることになると考えている。

平等院では鳳凰堂落慶を迎える前の期間から、東京での展覧会やその他様々なイベント・雑誌、東海道新幹線沿線の名古屋・東京・大阪での講座等で「平等院鳳凰堂完成記念」と銘打ち、広報周知を行っている。

展覧会ではオープニングに宇治茶をウエルカムティーとして振舞うことも検討しており、平等院と宇治上神社の2つ世界遺産と世界遺産登録を目指す宇治茶、この2つの文化コンテンツを活用することによって新しい産業が宇治に生まれると考えている。今後も宇治産の宇治茶をどう活用するか検討していきたい。

また平等院としても、「世界遺産 平等院」というネームバリューを宇治茶や宇治の町に活かしていただくことを強く望んでいる。

市に対しては、一事業者ではできないこと、行政が主体となってお声掛けすることで初めて実現に向けて動き出すことができることを積極的に取り組んでいただきたい。

例えば、宇治駅から平等院や宇治上神社への導線上にある自動販売機すべてが宇治茶を売っていたとしたら、観光客は宇治をより「お茶のまち」だと感じていただくことができる。そんなふうに、日常から宇治茶に関われる方法についてぜひ考えていただきたい。

【森委員長】

平等院鳳凰堂の修理は、私たちが生きている中で2度と巡ってこない千載一遇のチャンスであり、そのチャンスを活かすプロジェクトチームを立ち上げ、まち全体でなにができるのか、宇治に来られた方が宇治に来てよかったなと思っていただける取り組みを考える必要がある。

【神居委員】

人を呼ぶということは、お土産やその土地の景観、あるいは旅行者自身が自分を探せるようなモチベーションをこの町に持たせることだと思う。宇治というまちは「世界遺産のまち」であり、「お茶のまち」であり、神社やお寺がそれぞれ川の東と西にある宗教的なまちであり、歴史的な魅力が重層的にあるまちだと思うのでそれらをうまく活かしていくべき。

【北村委員】

宇治へ着いたらお茶の香りでおもてなしする発想を、商店街の活性化に活かすべきであり、各店舗が香茶器や機械を購入することを助成する制度を設けるなど、もっと取り組みやすい環境を作ってみることはどうか。

お茶が高く売れない状況のひとつ考え方として、急須自体があまりお客様の目につく場所で販売されていないと思う。急須についても、デザインをもっと工夫する余地があり、女の子に喜ばれるかわいい急須や、急須の概念から抜け出たような、それを持って歩きたいと思わせる急須があっても良い。抹茶茶碗も家庭にあまりないので、小さな茶碗に小さい茶筌をセットにして持って歩けるようなセットを販売したり、「恋茶セット」などネーミングを考えてみるなど、若い人が見せびらかして歩きたいと思うような商品作りや仕掛けを考えるなど、お茶のまちとしての雰囲気づくりが必要と考える。

【森委員長】

これまで個々で少しずつアクションプランに取り組んでいるが、誰が進めるのか具体的に決まっていないアクションプランやイベントの実施のみで終わってしまっているものもある。

例えば、スイーツコンテストは大変良い企画であるが商品化やお土産物として定着しておらず、イベント実施後の継続に向けた取り組みや、受賞作品を販売していくお店を業界全体で支援していく必要があり、またそれを誰がどこで調整するのかという点が課題である。

アクションプランを進めるにあたって、お茶、商店街、情報発信などテーマ別の部会を開くべきである。また、平等院が独自でやっていることととやかに連携して検討する必要があるので、落慶に向けた部会を緊急に開く必要がある。事務局のほうで案を練っていただくようお願いいたします。

【事務局】

今後、アクションプランを進めるにあたって部会の開催を検討していきたい。本日は長時間にわたってご議論いただき、ありがとうございました。